

岐路に立つ日本

未来を決める投票 シリーズ1

12月2日、衆議院議員選挙が公示されました。いわれなき解散と言われ、解散を理解できない国民が多数いました。しかし、新聞紙上では暴走する安倍政権を選択するのかという読者からの発言が相次いでいます。

衆議院の解散は首相の権限です。安倍首相は衆議院では圧倒的な自民党議員を占めていて、任期をあと2年も残しているうえでの解散に踏み切ったのです。解散の裏には明確な目的が隠されています。

「選挙に行っても何も変わらない」「忙しくて選挙どころではない」「誰に投票しても同じだ」しかし、一方では「消費税が大変だ」「年金が心配だ」「子供の将来に不安がある」などの声を聞くのも事実です。「投票は弾丸より強し」(エーブラハム・リンカーン)と過去の偉人は語っています。面倒でも、分かりにくくても候補者や政党の主張を聞き、そして考え選挙に行き、自分を主張することが大切とではないでしょうか。

12/2中日新聞より

【PS】12月2日に菅原文太さんが先月亡くなったことを報道しました。文太さんは11月1日に沖縄知事選で「最も大切なことは戦争をしないこと」と演説を行いました。「戦争をさせない1000人委員会」の呼びかけ人にも名を連ねるなどの活動を亡くなるまで行っていました。今、私たちは何ができるか考えることが大切と考えます。



日本の未来決める投票

柏田均 無職

(名古屋港区) 69歳

今回の選挙では、自民党がアベノミクスの是非について国民の判断を仰ぐと強調しているようだが、私は集団的自衛権、特定秘密保護法、そして原発政策の是非を問う選挙だと考え、美辞麗句に惑わされないよう判断すべきだと思う。

もし自民・公明が過半数を制すれば、国民に信任されたとの判断の下、集団的自衛権の行使容認を踏まえ、法整備などを最優先で推進させるだろう。それは、将来的に日本が戦争のできる国になることにつながる。また、福島原発でも汚染水漏れが続いている中で、原発再稼働が現実のものになるだろう。戦争ができる国への道か、平和の維持か。原発を進めるのか、やめるのか。日本は今、重要な岐路に立っている。今回の選挙は、その行く末を決める選挙である。有権者の皆さんが、子や孫に対する責任も考え、必ず投票に行き、自らの貴重な一票を投じることが願っている。